

平成20年度 長良川河口堰県民調査団 要約意見書

(1) 水質・底質について

● 長良川河口堰

質問 BODの値が伊勢大橋で一番高く、H16～19の間に倍近くなっているが、その原因は何なのか。

(2) 魚類について

● 人工干潟（城南沖）

要望 城南沖の干潟は、長島沖の干潟と共に、アユなどの仔稚魚の成育場として重要である。気候変動のからみもあるので、魚類調査（仔稚魚調査）を毎年実施してほしい。

● 長良川河口堰

意見 長良川の鮎等の魚の為、遡上期には魚道の流量が優先的に確保されており、治水利水という目的の他にも、環境への配慮がしっかりとなされているということが理解できた。

意見 アユ人工ふ化事業やサツキマス放流事業は環境保全と水産振興にもなり良いことだと思う。

(3) その他（治水対策など）について

● 人工干潟（城南沖）

意見 浚渫土砂の有効利用で、このような身近な場所に干潟があること存在をはじめて知った。人間が手を加えれば、里山もそうであるように自然も回復し、再生することが理解できた。

質問 人工干潟造成後、土砂流出による地形の変化はあるのか。

質問 関係者の努力により、ハマグリ回復について理解できたが、鳥類や他の水生生物の生息状況はどうなっているのか。

● 長良川河口堰

意見 河口堰については、色々な意見や考えがあるが、自然を守り、人々の生活を守ることは万人が理解している。良い事も悪い事もオープンにし、調査研究成果を世界に発信する意気込みで、末永く継続すべき。

意見 説明では何の問題もないようですが、ゴミ問題の話が出たように、問題点もあると思う。積極的に問題を示し、また河口堰の効果、成果も示して欲しい。

意見 今後も調査検討会が形骸化することなく、継続して行われることを願う。県民調査団についても、長良川河口堰の意義を広く知らせ、また行政との対話の場として、さらに後世に伝えていくためにも必要だと思う。

意見 塩害の被害については過去殆ど報道されていない。過去はそれ程問題にはならない程度のことだったのではないのか。河口堰は治水目的というより、工業用水が主目的ではないのか。流域の塩害防止は副次的効果で、それ程重要なことではないのかと思う。

意見 堰は本当は塩水遡上防止のためでなかったはずなのに、何時からその様な事になってしまったのか。使用目的が当初と違う。建設してからの後付けの言い訳にすぎない様にとれる。